



津奈木町辻の秋田畜産牧場

迎春

津奈木

前は乃西



新年を迎える度に「光陰矢の如し」と言う古人の言葉を思い出す。目出度くもあり目出度くもなしと詠んだ人の気持が分かる様な気がする。近頃刃庖丁を置いてない新世帯が増えていると聞いて、魚の料理はどうするかと言った、古いと笑われた。古いと言われたついでに、昔の事を書いておこうと思ひ立った。津奈木には嘉永二年(一八四九)岩永三平が架けたと言われる重盤岩眼鏡橋を初め九つの眼鏡橋がある。昭和三十年代の終り頃、土建業者の不注意により浜の眼鏡橋が一つ壊されたのは大変残念なことであった。此等の中、内野の眼鏡橋について母から聞いた唄を記録しておきたいと思う。内野眼鏡橋架けて、セイさん目はイトだ(傷んだ) オス二貫目は、貸し寝せや」と言う唄である。内野の眼鏡橋は、目の悪い

母の話では、母が子供の頃村内で何か変わった事や事件があると、簡単な歌詞をつくり、当時流行りの唄のメロディをかりて、子供や若者が唄ったと言うことである。前記の唄が推拙な歌詞であるのはそのためと思われる。熊本の近世用語事典、山田康弘著によれば、細川藩も中期以後になると、藩財政の窮乏を反映して、寸志御家人が輩出したと言う。百姓から銭二百目で傘(カラカサ)御免、一貫目で礼服傘小脇指、三貫目で、苗字刀御免御郡代直触、四貫目で地士

新年を迎えて

津奈木町長 六車 孝吉

母の話では、母が子供の頃村内で何か変わった事や事件があると、簡単な歌詞をつくり、当時流行りの唄のメロディをかりて、子供や若者が唄ったと言うことである。前記の唄が推拙な歌詞であるのはそのためと思われる。熊本の近世用語事典、山田康弘著によれば、細川藩も中期以後になると、藩財政の窮乏を反映して、寸志御家人が輩出したと言う。百姓から銭二百目で傘(カラカサ)御免、一貫目で礼服傘小脇指、三貫目で、苗字刀御免御郡代直触、四貫目で地士

K N

発行所
津奈木公民館
津北郡津奈木町
電話(78)3111代
印刷所 旭印刷
電話(水保)634101番

ウィンタースポーツ シーズンの到来

風ん子マラソン大会行われる

第十二回体力づくり「風ん子」

えております。

マラソン大会が、十二月十日(日)に津奈木大橋・西橋・曙橋のブロンズ橋を渡り、千拓周辺を廻る3キロ・5キロのマラソンコースで行なわれました。

この大会も町民の体力向上に役立つようにと催され、近年のジョギング及びウォーキングブームで、町内でも朝夕道路等を走られる人が多くなり、自分の健康管理は自分で維持していこうとのあらわれで、回を重ねることに参加者もふ

今年より参加者全員に記録証を渡しましたので、

今回の大会では、今回以上のタイムで走るように練習して下さい。また、一般の参加者が少ないので、積極的な参加をお願いします。尚、結果は次のとおりです。

記

◎五キロ
▽中学生男子 優勝 宮島哲男 16分37秒
二位 中村貴己 三位 岡下克徳 ◎三キロ
▽一般男子(五



○オ以上)
優勝 西川久義 12分54秒
▽一般女子
優勝 西川良子 14分16秒
二位 真野キヌヨ
二位 新立五津子 三位
▽中学生女子
優勝 篠原智美 12分46秒
二位 洲上美穂子 三位 上村彩子
▽小学生男子
優勝 浜田雄偉 11分01秒
二位 真野和寿 三位 福田進一
▽小学生女子
優勝 福山初美 12分14秒
二位 森山智枝 三位 森本明美

新春三太郎駅伝に応援を

毎年恒例の三太郎駅伝大会が来る一月十四日(日)午前十時、水俣市役所前をスタート、湯ノ見海岸道路を抜け、旧津奈木太郎峠を越え、田浦町改善センター前をゴールとする四十一キロ(一般と高校生が五区間、中学生が十区間)のコースで、一般の部はA、B十二チーム、高校生の部はA、B六チーム、中学生の部は十五チーム、合計三十三チームの参加で開催されます。本町選手も大会にむけて、選手一丸となり、昨年十月三日から毎週火・木・金曜日午後六時から午後八時までの二時間、雨の日も風の日も練習を行っております。

毎年、交通安全には、警察の方から注意されて来ましたが、今年度は特に、一般車輛の規制がきびしくなっております。伴走禁止、車の割込禁止、旧津奈木太郎への進入禁止等がなされておりますので、広場などで応援をし、選手の伴走をしたり、みだりに移動したりしないで下さい。また、中学生の父母の方等の車輛等及び応援のしかたなどが指摘されておりますので、くれぐれもご注意下さいませ。

ハカリ寄贈紹介

川内の下川国太さんより孝女千代さんの家を使っていたハカリを寄贈していただきました。これは下川さんの祖母様(千代さんの子孫)が大事に保管しておられたものです。郷土資料文化館に収納し、供覧にさせていただきます。

内野地区駅伝大会

内野地区では、毎年正月元日に駅伝大会を行っています。この大会には地区の皆さん全員が参加され、駅伝大会が内野地区では新年の幕明けとなります。駅伝大会は昭和四十年頃から始まり現在まで一回も欠けることなく続いているのです。開始当時、内野地区では農業モデル地区の県指定を受けており、この大会を地区の皆さんのふれあいの場として実施されたに聞いています。

元旦の午前十時に全員公民館前に集合し、年頭の挨拶を交わし開会式を行い、午前十一時にスタートし大会が始まるのです。チーム数は隣保班四つ、親子会の計五チーム。十一区間で競走し、優勝チームにはトロフィーが、出場者全員に参加賞が授与されます。幾つかの区間に障害走を取り入れております。選手の力走と盛んな声援で大変にぎやかで、なごやかな裡に大会を終ります。今後も長く続けられていくことでしょう。



スタートに立った選手たち

編集後記

▼光陰矢の如しの言葉通り、一年はアツという間に過ぎ去り、また、新しい年を迎えました。昨年も館報を読んでいただきましたが、本年も更に愛読されれば幸甚の至りです。皆様のご期待に応えるべく編集員一同頑張りましますので、よろしくお願ひします。

恒例になっている新春風あげ大会を来る一月二十一日(日)九時三十分より町総合グラウンドで行います。親子一緒の参加も大いに歓迎、多数の皆さんの参加をお願いいたします。

風あげ大会のお知らせ

地上十・八mの所に斧を片手に枝を落としている姿が目に入る。それは沢井さんである。現在の体重四十七kgと身軽な体つきであるが、この孤独で危険な仕事を始めて五十年、学生時代にクラブ活動で鉄棒をしたのがきっかけである。最初の仕事は、電柱に登り、戦後、建築ブームの中、製材所の仕事で立木の枝打を始める。その頃、芦北地域は全国有数の松の造林地帯で、大木になると、伐採方向を決めるため松の木に登り、片枝だけを落してから切り始めたという。現在は杉、桧の枝打が主で、四面



地域をおこす人々(7)
森林を守り続ける

沢井清俊さん 65才

森の中に入り、耳を澄ますと、どこからともなく「コツコツ、コツコツ」とキツツキがある様な音がする。木の隙間からよく見ると、無節の柱を取るためにはビルビンの太さになると、枝打を始めるにければならない。毎朝弁当片手に山に登り山を守り続けている。現

在まで、木から落ちたことがない。木登りの心がけは気をゆるめないことと、登る前に必ずションベンをすることであるという。(落下した時、膀胱がやぶれる危険がある)また、木から木へ移る際にマムシをふまないことである。

さて、本町にも木材市場が出来たが、工場に並ぶ大半の材木は保育時代に、林内車か、集材機で山

の来たるべき国産材時代には量から質の時代、市場価格は現在、山の手入れの程度差に左右されると言っても、過言ではないでしょう。



元に搬出し、トラックによって運ばれて来た間伐材である。現在、皆伐は減少し、抜伐による複層林も見直されている。また、十年後

う。有利販売をするには、林業労働者不足の中、枝打、間伐の施業と、林道作業道の基盤整備が必須で、産地形成は地域の活性化に直結びつくだらう。

森林は人々に水と空氣と安らぎを与えてくれる。昔の生活は衣食住すべて山との付き合いであったが、現代文明は太古の文化の大切さを忘れかけようとしている。皆さんが山に出かけられる時、森の静寂の中、風で木がきしむ音とコツコツと二人枝を打つ音が聞えてくるかもしれない。

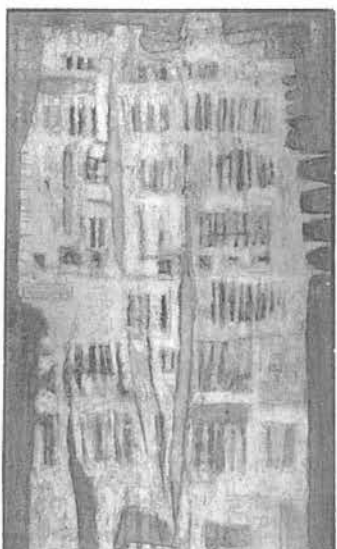
山を愛し、山で働く山の男、沢井清俊さんはこれからもずっと山を守り続けて行くことでしよう。

(西平記)

リトグラフ
構築

一九六〇

坂本善三



作家の円熟期の作品であり、画面には、その強い意識が表出されている。

厚い画肌と堅牢な構図は迫力を持って迫ってくる。
打ちひしがれても、しっかりと存在感を示す。重厚
な建築物を想わせる。

何かしら哀愁を感じるのは私だけだろうか？（T）

序舍美術館(28)

ばくやおにちゃんと同じくらいのころのエジソンは、学校へも行かずに家で勉強しました。理科が大好きで、本に出ている実験を自分でやりはじめました。おこづかいで、やくひんや実験の道具を買って毎日実験しました。

このことを読んでいううちに、エジソンがとてもうらやましくなりました。自分のしたいことをだれからもちゅういされずに、思うようにできていいなあと思いました。ばくの母にそういうと、母は「なぜなの、どうしてなのと思つたら、はつきりわかるまでいろいろなことを最後までやりとおせるの。」といいました。

ばくはエジソンみたいに自分一人で実験したり、図書かんの本をぜんぶ読んでしまつたりは、できないだろうと思ひました。

十一歳の時には、実験のために新聞を売って勉強をつげました。工場とけんきゆう所をもつて、次から次へと新しいきかいを考え出し、今までのきかいをもつとべんに使ひやすくすることをくふうしました。エジソンは実験する時どんな小さなことも見のがさないようにちゅういしました。時にはしばしば思ひがけない発明のヒントになることもありました。ち

く音きの発明がそれでした。また、電とうを発明する時は、大へんくろうしました。最しよのころは、タングステンのせんのかわりに日本の竹がつかわれていたことにはびっくりしました。

エジソンは、八十四歳でなくなるまでに電とう、ちく音きなど三千もの発明のとききをとりました。エジソンは、発明の天才だと思います。

でも、エジソンも小さい時からすぐれた人だったわけではありません。みんなから、ばかな子だとわらわれたことさえありました。しかしエジソンは、どんな時にもくじけないうで勉強し、努力をして自分の力をつくりあげて行きました。

なくなるまでには、世の中のためになるたくさんの発明をして、今のぼくたちのくらしがこんなにべんりになりました。これもエジソンのおかげだと思います。

讀書感想文

「エジソンを読んで」

津奈木小学校二年 鶴野 拓志

ばくやおおいちゃんと同じくらい
のころのエジソンは、学校へも
行かずに家で勉強しました。理科
が大好きで、本に出ている実験を
自分でやりはじめました。おこづ
かいで、やくひんや実験の道ぐを
く音きの発明がそれででした。また
電とうを発明する時は、大へんく
ろうしました。最しよのころは、
タングステンのせんのかわりに日
本の竹がつかわれていたことには
びっくりしました。

買った。毎日実験しました。

このことを読んでいるうちに、エジソンがともうらやましくなりました。自分のしたいことをだれからもちゅういされずに、思う思います。

エジソンは、八十四歳でなくなるまでに電とう、ちく音きなど三千もの発明のとききをとりました。エジソンは、発明の天才だと

ようにできていいなあと思いました。ぼくの母にそういうと、母は「なぜなの、どうしてなのと思つたら、はっきりわかるまでいろいろなことを最後までやりとおせるの。」といいました。

ぼくはエジソンみたいに自分一人で実験したり、図書かんの本を

でも、エジソンも小さい時からすぐれた人だったわけではありません。みんなから、ばかな子だと思われれたことさえありました。しかしエジソンは、どんな時にもくじけないで勉強し、努力をして自分の力をつくりあげて行きました。

ぜんぶ読んでしまったりは、できないだろうと思いました。

十一歳の時には、実験のために新聞を売って勉強をつづけました。工場とけんきゅう所をもって、次

なくなるまでには、世の中のためになるたくさんの発明をして、今のぼくたちのくらしがこんなにべんりになりました。これもエジソンのおかげだと思っています。

祝・成人

将来の津奈木を

背負つて立つ若人たち

地区名	氏 名	地区名	氏 名	地区名	氏 名	地区名	氏 名
竹 中	山崎明宏	古 川	秋高元裕幸	上下門	竹田直美	平国下	伊藤藤伸二
染 竹	山崎本朝	大 泊	高橋葉卓郎	福 浦	荒川石原ル	日 当	松本田口上
浜 崎	山本才鶴		椎増百柳吉		山上福松福		前田村津々
	浦野正峰		野立木隆直		福山崎山山		森山野田崎
	原坂口坂	中 尾	佐々木庭英裕		福山山山山		草林田崎井
	前坂		桜川齋浦川	平国上	福橋		岩白松森松
	林森前古	古中尾	田野口野山		演演演鬼野		津々木本原
桜 戸	竹岡野塚		原山黒田山		演演演鬼野	日 添	篠林諫謙
	岡野塚山	倉 谷	黒田山本本	平国下	長(旧姓 山下)		田山山山
町 新	志船川丸		楠(旧姓 上野)		伊野濱松長	小津奈木	佐々木永永
古 川	西	内 野	豊田田		上		高水永永
			豊田田				松本松松
			文子				伸一也

成人になって
私の抱負

二十回目の誕生日は、人生の中では一つの通過点にしかすぎません。社会では『成人』として見なされます。今までは、未成年だから規制され、保護のもとにいた者が、『これから自由です。』と言われても何をやってよいのか戸惑ってしまいます。ただ、酒や煙草が公然とできる、結婚も自分の意志でできるなどの自由だけではないと思います。規制されていたことが自由になるだけで、法のもとでは何も変らないのです。一人前



永松伸也

の大人として、多くの美務を守って行かなければなりません。その義務を守り、自分の権利、いわゆる



永松 伸也

人生が長いのです。何にでも、何度でも、挑戦することができず、あまり物事にとらわれず、いろいろな経験をする事で、厳しい社会を乗り越えることができ、そこに自分の道が開けると思っています。

これからは、選挙権が与えられ政治への参加もできます。自分の意見で社会が変わることもありえます。

もう、自分の道を決めて歩いていく人もいますが、成人になると機会に、もう一度自分を振り返つてみることも大切なことと思っています。これからいろんな波が押し

しかし、私たちは若者です。若
 千二十歳にしかすぎません。現在
 日本は、人生八十年の時代に入り
 ました。私たちはまだ、残された
 し寄せて来る時もあるが、何か一
 つでもよいから目標を持つことが
 必要と思います。私も目標に向つ
 て頑張っていきたいと思っています。



高木優子

いつの間にか、友人も結婚・出産と家庭を持ち、自分だけがとり残されていく様な気もするが、まだ、やりたい事、学びたい事が山ほどあるので、その中で自分の考えをおさえていくだけでなく、自分の考えを主張できる様な、そんな大人に成長していきたいと思っています。

そして先日、私自身とても感動した出来事がありました。その日は私の20回目の誕生日で、仕事から帰ると、テーブルに二枚のメモがあり、「誕生日おめでとう」と両親から一枚ずつのメモでした。たった一言だけでも、それがたまたま嬉しくて、と同時にその一言にいろんな意味が含まれていた様に思えます。その後も、高校卒業後バラバラになって行つた友人からも連絡があり、あの頃を思い出していました。みんなそれぞれの道を目標に向かって歩いているわけだが、私もこれから先、いろんな出来事にぶつかり、悩んだりする事も多いと思うけど、その時を振り返り、何事にも一生懸命だったと言える様、また、悔いの残らぬ様に、これからの道を歩いて行きたいと思います。

